

内水面の環境保全と遊漁振興に関する研究 ―アユ遊漁の新規参入を増やす方策の試行―
(平成 30 年度)

阿久津 正浩

要 約

アユ遊漁の新規参入者を増やす方策の試行として、他の釣りはやるもののアユ釣りは未経験の者を対象にアユの友釣りを指導する「アユ釣り師養成講座」を実施し、その有効性について調査した。

平均釣果は 1 人 1 日 8.7 尾と良く釣れ、その要因として、受講生 1 人につきアユ遊漁熟練者 1 人を講師として付けることできめ細やかな指導ができたこと、解禁直後に条件の良い場所で実施できたことなどが考えられた。今回の講座は受講生に多くのアユを釣ってもらうことができ、実際に講座終了後自らアユ遊漁を実施したことから、アユ遊漁継続の可能性が高い企画であったと考えられた。一方、アユ遊漁を継続してもらうためには、道具のレンタル、釣り場ガイド、フォローアップ講座など何らかのバックアップ体制も必要であると考えられた。

本研究は（一財）東京水産振興会および（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所「平成 30 年度内水面の環境保全と遊漁振興に関する研究」の一環として実施し、詳細な報告については（一財）東京水産振興会 HP

(https://www.suisan-shinkou.or.jp/promotion/pdf/inland_water_report_2018.pdf)

(指導環境室)